裾野麗峰山の会・山行報告書

文・写真　後藤

山行NO　　ＮＯ．１７３４
日　時　　２０１７．０４．１４日（金）～１６日（日）
山　域　　越後・浅草岳（１５８５ｍ）、守門岳（１５３７ｍ）、上州・有笠山（８７３ｍ）

１日目　　４月１４日（金・快晴）＝浅草岳（早坂尾根滑降）
コース　　旧大自然館６：３７－林道終点８：００－尾根間違える８：１５－夏道尾根８：３０—浅草の鐘１０：００－浅草岳１１：５２～１２：００－早坂尾根—尾根分岐１２：５４－林道１４：００—旧大自然館１４：５１
標高差　　上り　旧大自然館約５００ｍ～浅草岳１５８５ｍ＝約１０８５ｍ
　　下り　　〃
参加者　　後藤・加藤

待望の早坂尾根はサイコーだった

早朝、破間川ダムの橋に何人かカメラを構えていた。
後で知ったが、この時期、ダムに張った氷が割れて流れる「雪流れ」現象の撮影だった。
要するに、流氷現象だが、確かに素晴らしかった。
特に今年は、積雪が数年ぶりに多く、その規模が大きいようだ。

朝の風景

昼の風景

道路の除雪は、旧大自然館でお終い。前回の２００４年と同じだった。
車は福島ＮＯが一台。既に出発したようだ。
雪は約２ｍ。確かに、同じ時期の２００４年より多かった。除雪最終地から出発。天気は良い。

旧大自然館前

林道を進みヤジマナ沢沿いを上る。左に橋がある。帰りはここに来る。トレースは、
左＝沢沿い、右＝林道に分かれていた。後で分かったが、夏道は左で、白崩沢沿いに進み、ヤジマナ沢を渡り、８１２ｍ峰に向かうのが正解。
しかし、我々は右の林道を進んだ。林道は程なく終わった。正面の尾根が夏ルートと思い上ったが、実際は、ヤジマナ沢南の尾根だった。苦労して急登を３０分上ったが、結局、下って正規夏道に向かった。
ただ、山レコなどは、この尾根を上っている。
そして、この日上った多くの方は、こちらの尾根を上って来た。先行の福島２名も上ったが、「厳しかった」と話していた。２００４年は、何処だったか記憶がない。

夏道・８１２ｍ峰下

夏道はやっぱり上り易かった。尾根は部分的に雪が割れていたが、問題なかった。桜ゾネ手前は可なりの急登で苦労。夏は、林道が伸びているようだ。抜けると、「浅草の鐘」があった。
次第にブナ疎林になり、気分は上々。ただ、非常に暑く参った。右手の先ほどの尾根に何人か上っている。こちらの正規の夏道は、後続がなかった。
前方に、「嘉平与ボッチ」が見えた。トラバースして右の尾根を上る。福島の２名に追いついた。聞け

ば、朝６時に出たという。１名はバテ気味だった。ボッチ手前で、単独行に抜かれた。ボッチ先に、巨大な雪庇があった。単独行は、我々が前岳を越えたら頂上から滑って来た。
ゼイゼイ・ハーハーで懐かしい浅草岳頂上着。標高の割に苦しく厳しく、５時間近く掛かった。２００４年は、ここで新潟県連「みちぐさハイクングクラブ」と交流した。今回、その時一緒だった、Ｉさんにいろいろ、情報をいただいた。

後ろが、嘉平与ボッチと雪庇

頂上直下

浅草岳頂上

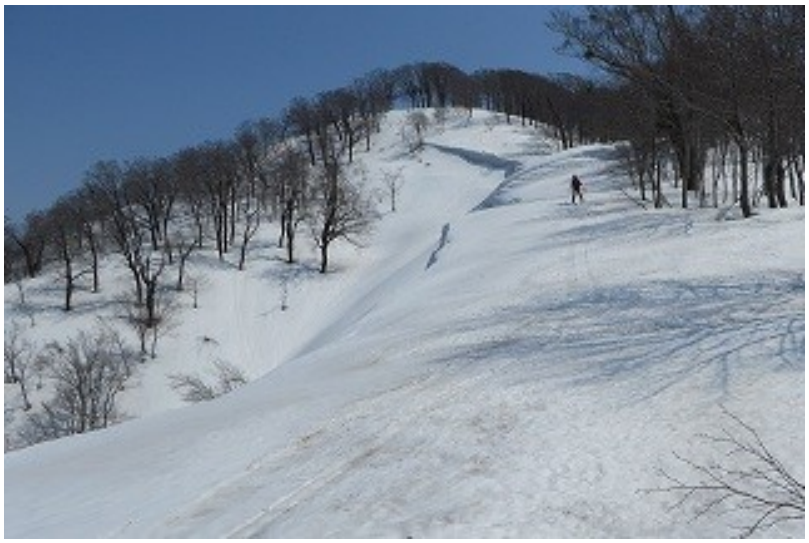
２００４年・「みちぐさ」さんと

２００４年・Ｉさん

早坂尾根・雪の砂漠を滑る

待望の早坂尾根を滑る。頂上から直に滑れるのが嬉しい。
早坂尾根は、「雪の砂漠」と呼ばれる、広大な雪原が延々と続く。ただ、天気が悪いと、ルートファイティングは難しい。今日は快晴の上、ＧＰＳがあるから心強い。

後ろ真ん中が浅草岳



支尾根を滑る

快適に飛ばす。スキーが上手くなった錯覚。山には誰も居なかった。福島班も早坂尾根といっていたが、結局来なかった。余りに素晴らしいので、動画を撮った。
やがて１２５０ｍ付近でルートは西に向かう。早坂尾根は、ここがポイントだった。ＧＰＳにあらかじめ、ルートを入れてあるので、全く心配はない。以前の「２万５千図・高度計・磁石」が嘘の様だった。ただ、いくらＧＰＳが万能と言え、やっぱり前述のモノは必ず持参する。器械はあくまで器械だ。
支尾根の三角点・１１４５．９ｍ峰手前で、真西に急斜面を下り、林道に向かう。
ザラメを快適に滑ると、右沢上部の本沢支流に出る。ここを軽快に下って行くと、懸念していた林道にバッチリ出た。
ま、ＧＰＳと勘と好天のお蔭だろう。感謝である。林道で初めて大休憩。春の陽光が眩しかった。それにしても腹が減った。ビアはなし。残念。
林道は、雪が重く滑らなかったが、頑張って下る。朝確認した橋を渡り、小１時間で出発地に着いた。
結局、この日、早坂尾根は我々だけだった。福島班は丁度帰る所だった。
雪壁にビアを突っ込み、今日の山に感謝し頂いた。サイコーの味だった。

林道を滑る

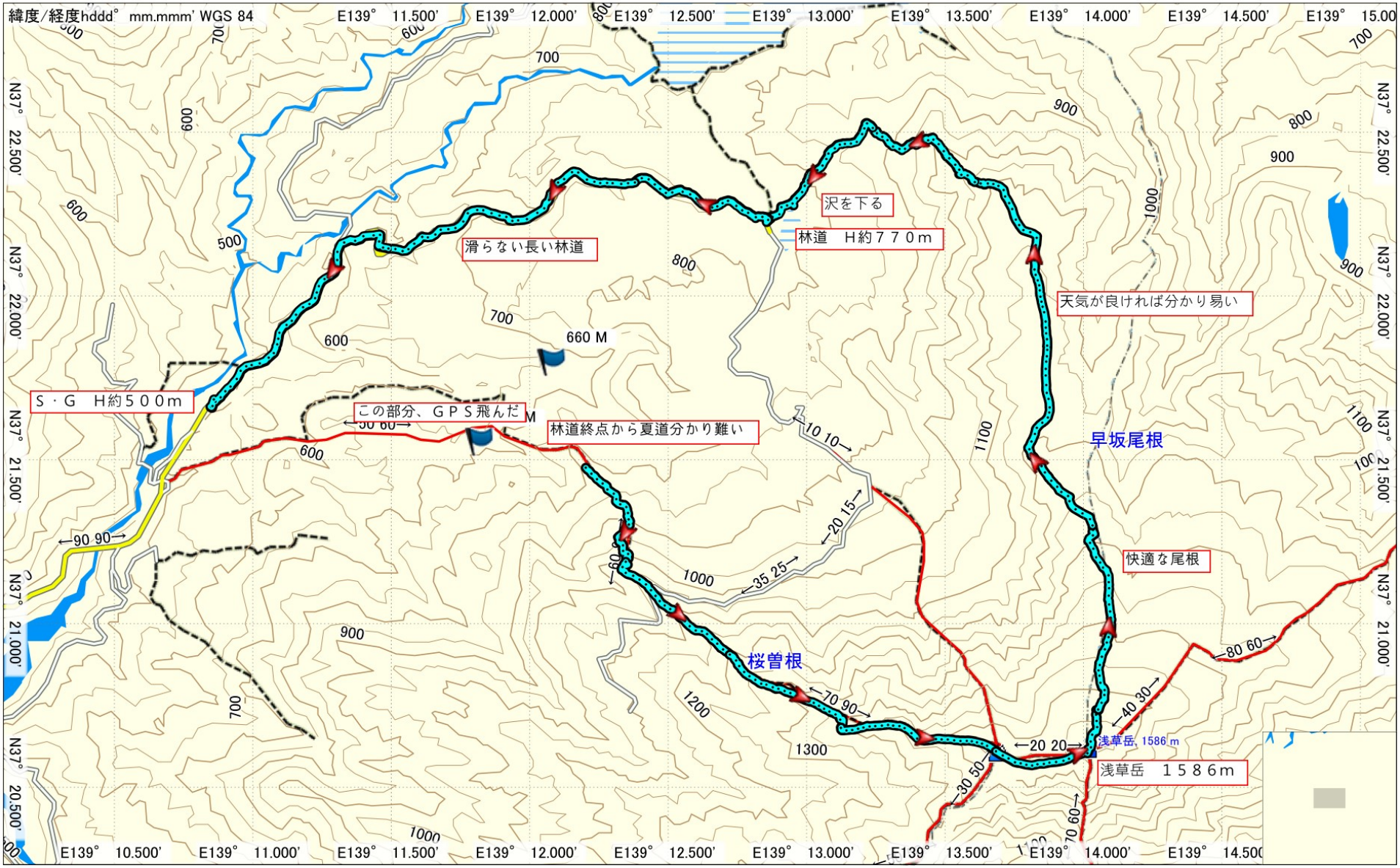
旧大自然館着

雪壁で冷やしたビア

注＝１．新潟県連、みちぐさハイキングクラブは、「みちくさ」でなく「みちぐさ」です。

２．Ｉさんの話＝浅草岳スキーで夏道尾根を利用した経験はありません。私たちが何時も利用しているルートは、夏道対岸のヤジマナ沢左岸尾根です。このコースは林道終点からやや複雑で標高 900m くらいで尾根上に出ます。他のパーティも多く使っています。

了



Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014

2017/04/17 10:54:47

0 m 350 m 700 m 1050 m 1400 m

GARMIN

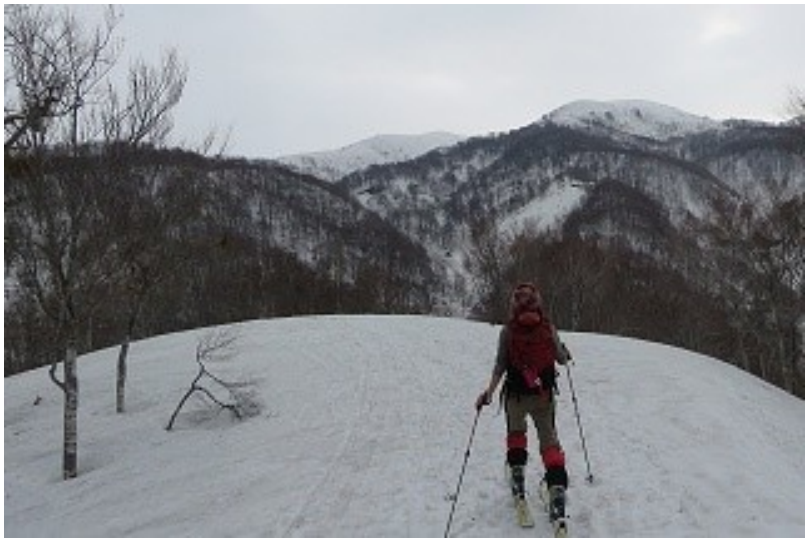
MN TN
-7.5°
2010/01/01

２日目　　４月１５日（土・曇～大雨）＝守門岳（キビタキ小屋まで）
コース　　二口発６：５０－キビタキ小屋９：３０－二口１１：４３
標高差　　上り　二口約４００ｍ～キビタキ小屋約１０００ｍ＝約６００ｍ
　　下り　　〃

６７歳のオヤジに脱帽

天気は下り坂。今にも降りそうだった。除雪は二口まで。例年と同じだった。
何人か先行。西川を渡り、林道をショート・カットして上る。
なお林道を進むと、相当遠回りになるので、長峰南の尾根を上る。ただ入り口は、すっかり忘れていた。
長岡市・楽山会（？）の６７歳の方に教えて貰った。
林道から崖を上るので、長岡の方、加藤はスキーを脱いだが、私はスキーで上り切った。後ろから、もう一人追いついて来た。結果、この二人は登頂した。
南の尾根を上ると、大平からの林道に出る。小さな沢を上り長峰を目指す。標高約６４０ｍで沢から離れ、北の尾根を上り、長峰下着。ＧＰＳでは、夏道は沢を真っ直ぐ行っていた。
長峰したから再び林道を進む。この辺りは、前回２００４年の記憶があった。

二口登山口


長峰付近

林道の頂上部から少し下ると、保久礼小屋が見えた。かなり古い感じで、使えるか不明。
雨がパラパラ来た。途中にいたボーダーは、悪天候で早くも下ると言った。
小屋から急登が始まる。先日痛めた左ふくらはぎが悲鳴を上げる。空は増々、暗くなって来た。ガガガーの音が聞こえたら、早くも一人下って来た。

キビタキ小屋

２００４．０４．１１

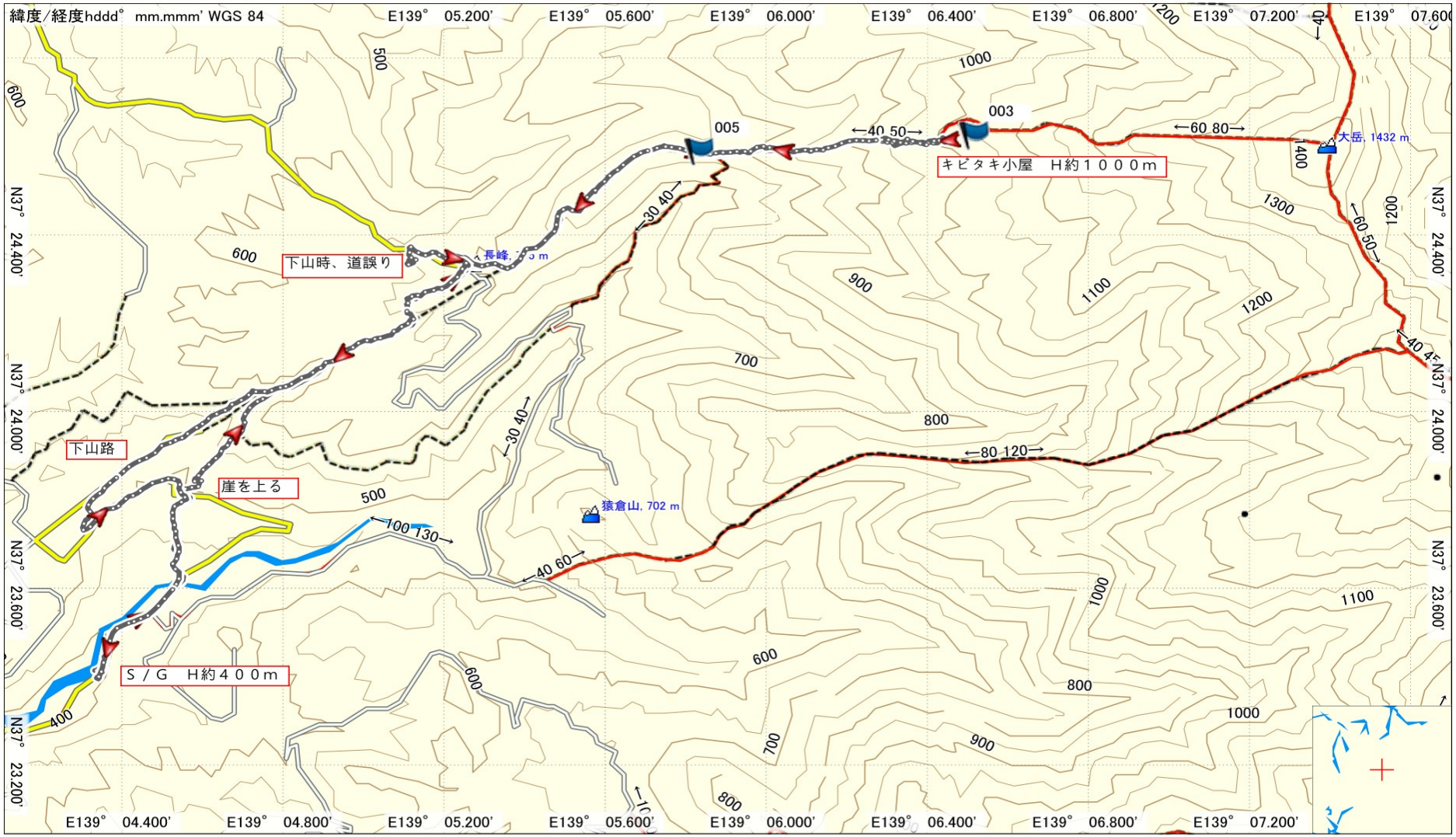
キビタキ小屋に着いた。もう一人滑って来た。雨が大降りになった。昨日の疲れもあり意気は上がらない。今回はここまでとした。
スキーは、気温が低く雪が硬いので、難儀だった。林道を上り返し滑る。長峰下で林道分岐を行き過ぎてしまい上り返した。正規ルートに戻り、まあまあ滑りで下部林道に出る。
長峰南の尾根は狭いので、怪我を嫌い、大平経由で下る。林道は長かった。雨は本降り。朝の崖に来ると、朝会った、長岡の６７歳の方が降りて来た。聞けば、頂上に上ったそうだ。我々が、キビタキ小屋に着いた時間に上ったそうだ。
全く年齢を感じさせないスピードだった。勿論、我々は昨日の疲れもあるが、脱帽だった。朝後ろから

来た、もう一人の方も南西尾根を下ったそうだ。大雨の中二口着。今回の守門岳は残念だった。

手前の方が、長岡市・楽山会の方。

２００４年の滑降

２００４年



Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014

2017/04/17 17:06:31

0 m 250 m 500 m 750 m 1000 m

GARMIN

MN TN
-7.6°
2010/01/01

３日目　　４月１６日（日・快晴）＝大岩山（１１４４ｍ・不動の滝まで）・有笠山（８７３ｍ）
コース　　大岩不動尊入口発８：２６－大岩不動尊８：５０－不動滝９：００－有笠山水源地発１０：２０－西登山口１０：４１―ロックゲレンデ１０：４６－東登山口分岐１１：１２－有笠山山頂１１：３１－東登山口１２：２０－水源地１２：４０

標高差　　上り　水源地約５５０ｍ～有笠山８７３ｍ＝約３２３ｍ
　　下り　　〃

小粒でピリリと辛い岩山

好天は分かっていた。谷川岳・西黒尾根もあったが、結局、上州に流れて来た。
資料はなかったが、以前見た有笠山の山容が妙に目に焼き付き、上りたいと思った。吾妻川沿いは岩櫃山をはじめ、興味ある岩山が多い。そんな訳で最初は、有笠山の前に近くの大岩山に向かった。

大岩山

大岩山は、２万５千図に標高は表記されているが、山名の記述はない。従って大岩山の名称は、地元で呼んでいるローカルネームである。
大岩不動尊入口から登山開始。しばらく歩道を上る。ほどなく杉林の不動尊社着。更に進めば、４０ｍくらいの大きな不動の滝がある。しかし、登山道はここまでで、先には行けなかった。
潔く戻り、有笠山を目指す。計画は西登山道から東登山道への周遊。林道に地元のオジサンたちが集まっていた。下刈りを行うようだ。
西登山道まで車で行くと、周遊が出来ないので、東西分岐の水源地に車を置いた。西登山口まで、歩いて２０分。林道の通行止めゲートの右が登山道だった。最初から急登を行く。グングン上ると、ロック・ガーデンに着いた。数名が岩トレをやっていた。ただ、聞けば一般登山道は、ここでないとのこと。戻って上り直す。

有笠山

西登山口

ロック・ガーデン

落ち葉で分かり難い登山道を上る。先行の若い衆が二名。先の岩場で訓練をするようだ。聞けば、K大学生だった。

更に上ると、東登山道の分岐だった。頂上に向かうが、鎖場・梯子が続いた。上部に来ると、俄かに風が強くなった。これでは、やっぱり谷川岳は無理だったかと納得。
上りは厳しかった。スキーの疲れもあり、痛めたふくらはぎを、また痛めてしまった。しかし、ここまで来て、引き下がれないので、左足をガニ股にして粘った。

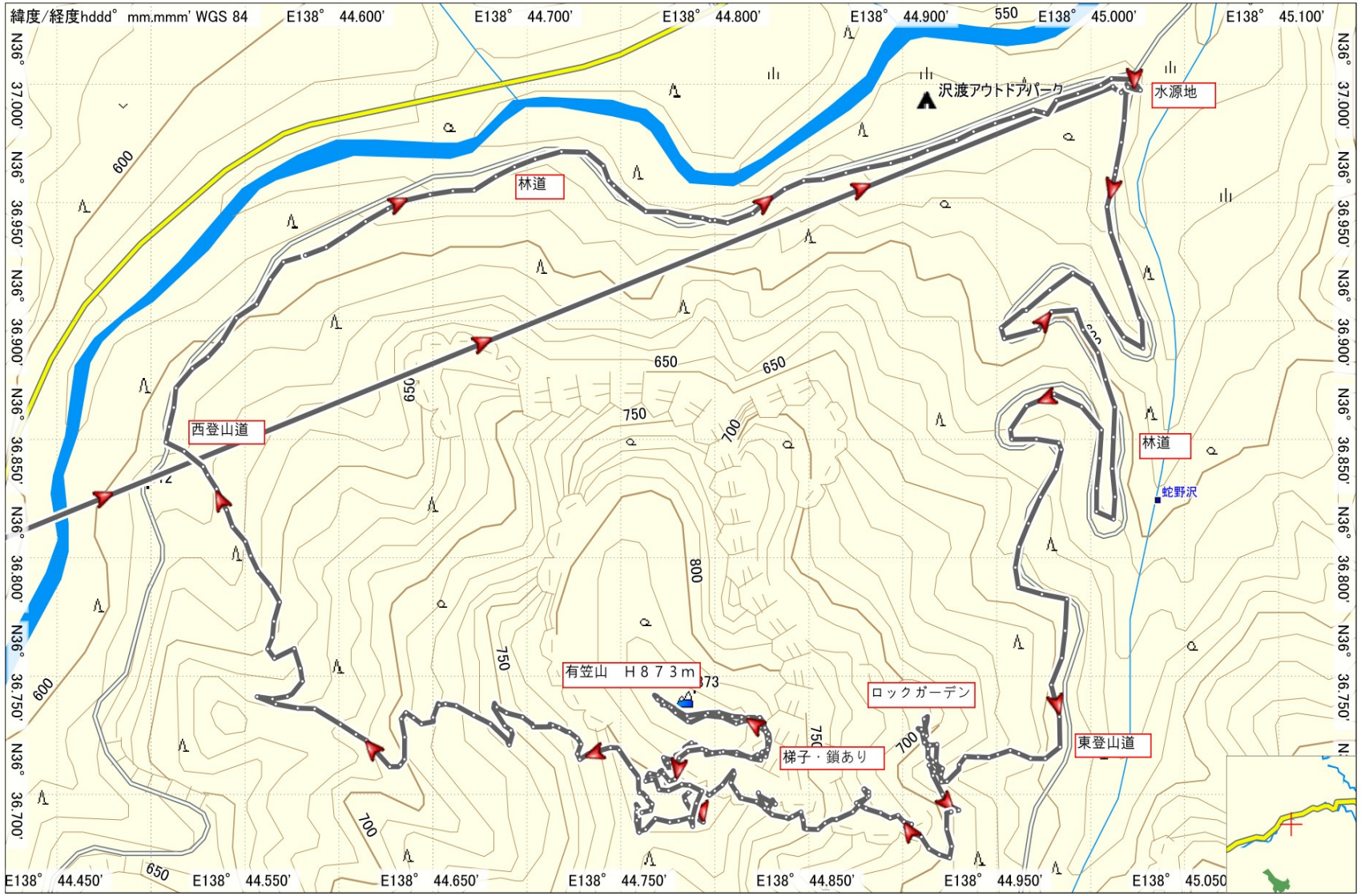
Ｋ大生

梯子・鎖場

頂上

好天の頂上着。北に真っ白な山脈が大きかった。苗場や谷川の山々だった。
下りは足も楽だった。石門と呼ばれる岩場を越えると、更に楽になった。途中の大きな岩場で、女子中心で訓練をやっていた。
程なく東登山道。林道を下れば、水源地。高い山でなかったが、＋αの山としては、申し分なかった。
温泉は、沢渡（さわわたり）温泉の共同浴場。３００－は有難かった。

沢渡共同浴場



Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014

2017/04/17 17:06:31

0 m 50 m 100 m 150 m 200 m

MN TN
-7.3°
2010/01/01

GARMIN